



名前

イネ
づくり

観察・調査②
春

もみはどんなふう^に成長するんだらう

もみの中身^{なかみ}のほとんどは「胚乳^{はいにゅう}」^めといって、お米としてみんなが食べる^{ようぶん}ところなんだ。ここには芽や根が元気に伸びていくための^{ようぶん}養分がたくわえられている。下の写真のように、芽と根はこの胚乳から送られた養分を使ってのびて行き、最後に胚乳は空っぽになってしぼんでしまうよ。

芽が出たばかりの苗。種もみと芽をたてに切ってヨウ素でんぷん反応を調べたもの。むらさき色の部分に成長するための養分であるでんぷんがたまっている。



ココがポイント

光合成をはじめるとき

ちょうど3枚目の葉が伸びきるころ、苗は、根や葉っぱをしっかりと働かせるようになるよ。根は土の中で養分を吸収し、葉は太陽の光を受けて光合成を行うんだ。胚乳はそろそろからっぽだけれども、もう自力で栄養を作りだせるから、だいじょうぶだよ。

メモ

観察しよう

イネの誕生（胚から芽と根が出てくる）のようすを絵にえがいてみよう。

